

平成30年 度香川県中学校教育研究会技術・家庭科部会  
夏季研修会

# 技術・家庭科の授業づくり

國木 良輝

# 学習指導要領の変遷

昭和  
33～35  
年改訂

教育課程の基準としての性格の明確化

(道徳の時間の新設、基礎学力の充実、科学技術教育の向上)  
(系統的な学習を重視)

(実施)

小学校:昭和36年度、中学校:昭和37年度、高等学校:昭和38年度(学年進行)

昭和  
43～45  
年改訂

教育内容の一層の向上(「教育内容の現代化」)

(時代の進展に対応した教育内容の導入)  
(算数における集合の導入等)

(実施)

小学校:昭和46年度、中学校:昭和47年度、高等学校:昭和48年度(学年進行)

昭和  
52～53  
年改訂

ゆとりある充実した学校生活の実現＝学習負担の適正化

(各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる)

(実施)

小学校:昭和55年度、中学校:昭和56年度、高等学校:昭和57年度(学年進行)

平成  
元年  
改訂

社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成

(生活科の新設、道徳教育の充実)

(実施)

小学校:平成4年度、中学校:平成5年度、高等学校:平成6年度(学年進行)

平成  
10～11  
年改訂

基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考  
える力などの「生きる力」の育成

(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設)

(実施)

小学校:平成14年度、中学校:平成14年度、高等学校:平成15年度(学年進行)

平成  
20～21  
年改訂

「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、

思考力・判断力・表現力等の育成のバランス

(授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入)

(実施) 小学校:平成23年度、中学校:平成24年度、高等学校:平成25年度(年次進行)

※小・中は平成21年度、高は平成22年度から先行実施

学習指導要領のねらいの一層の実  
現の観点から学習指導要領の一部  
改正(平成15年)

平成29年3月改訂 告示

# 技術・家庭科を指導できること

## 技術・家庭科の変遷

1958年：科学技術に関する指導を強化するため、それまで開設されていた職業・家庭科と図画工作科を、技術・家庭科と美術科に再編成する形で**新設された**。

技術・家庭科の各分野の内容と時間数の変遷

改訂年度	技術分野	家庭分野	男女別	時間数
1958年	設計・製図，木材加工，金属加工，栽培，機械，電気，総合実習	設計・製図，家庭工作，家庭機械，調理，被服制作，保育	男女別	各315時間
1969年	製図，木工，金工，機械，電気，栽培，総合実習	被服，食物，住居，保育，家庭機械，家庭電気	男女別	各315時間
1977年	木工，金工，機械，電気，栽培	被服，食物，住居，保育	一部男女共通	計245時間
1989年	木工，電気，金工，機械，栽培，情報基礎	家庭生活，食物，被服，住居，保育	男女共通	各105～122.5時間
1998年	技術とものづくり，情報とコンピュータ	生活の自立と衣食住，家族と家庭生活	男女共通	各87.5時間
2008年	材料と加工に関する技術，エネルギー変換に関する技術，生物育成に関する技術，情報に関する技術	家族・家庭と子供の成長，食生活と自立，衣生活・住生活と自立，身近な消費生活と環境	男女共通	各87.5時間

## 技術・家庭科を通して学び続けること

- 技術・家庭科の教員として  
教科との出会いと自己内変化
- 技術・家庭科と生き方指導  
人生を左右する（かも）すばらしい教科
- 技術・家庭科を次の時代へ  
これからの時代にこそ必要な教科

# 研究大会を直前に控えて

## 研究と実践とは言うけれど・・・

- ※ 生涯何回かある研究大会 = 技術・家庭科教員としての成長
- ※ **日々のよりよい授業づくりをめざす実践研究 = 授業の質は、指導力**
- ※ 研究大会は、香川県全技術・家庭科教員の研究
  - 研究推進の一員であること（全体提案，授業提案，分科会提案）
  - 県・各郡市の取組をチームで進める（分科会提案，授業提案の整合性）
  - 学習指導要領の改訂を踏まえて（移行期間）  
（教科調査官からのご指導〔中四国研究部長会を経て，研究大会へ〕）
- ※ 整合性を大切に（分科会提案・公開授業）
  - 全体提案：研究目的 → 研究内容 → 研究方法 → 研究成果、課題

## 中四国技術・家庭科研究部長会（7/28）を終えて

- これからの技術・家庭科の在り方
  - \* 移行期間から全面実施を視野に入れて
  - \* 研究と実践の共有化

**※ 一人一人がこれからの授業づくりを考える。**

- 公開授業と分科会提案
  - \* ご指導いただいた内容の理解と共有化
  - \* 香川大会要録（原稿）の作成
  - \* 研究大会当日までにやるべきこと（全員で）



# 教科調査官より指導内容のポイント（7/28）

## <技術分野>

- ・分科会提案
- ・公開授業

## <家庭分野>

- ・分科会提案
- ・公開授業

### 1 知識及び技能、力、態度（生徒）

- \* 何を理解しているか、何ができるか
- \* 理解していること、できることをどう使うか
- \* どのようにによりよい人生を送るか

### 2 学びの質を問う力（教師）

- \* 何ができるようにさせるのか
- \* 何を学ばせるのか
- \* どのように学ばせるのか

### <確認事項> 研究内容・方法の整合性

**言葉、課題の難易度、学び、見方・考え方**

# 研究の方向性

これまで、よりよい授業づくりを求めて、授業改善の視点から**問題解決的な学習の充実**に関する研究に取り組んできた。

平成20年度3月 改訂  
平成24年4月～ 全面実施

**現行学習指導要領**

**主体者意識をもって進んで生活を工夫し創造する能力の育成**

平成28年度

**次期学習指導要領告示(2017/3/31)**

平成29年度

**学びの質を高める問題解決的な学習**

平成30年度

**第56回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会（香川大会）**

平成33年度～

**次期学習指導要領全面実施**



# 新学習指導要領→全体提案＝分科会提案＋公開授業

## ＜確認＞

- ※ 学習指導要領の改訂の趣旨から教科の在り方を
- ※ 教科，分野・内容の目標と内容の理解



よりより授業づくりを追究すること



平成30年度＝移行期に入る重要な年度  
平成31年度～＝完全実施を視野に入れて

# 改訂の趣旨・・・教科の在り方

## 目指す資質・能力の明確化

### <三つの柱>

ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵かん養）」

### <全教科等の目標及び内容>

○ 知識及び技能    ○ 思考力，判断力，表現力等    ○ 学びに向かう力，人間性等

### 「技術の見方・考え方」

生活や社会における事象を，技術との関わりでの視点で捉え，社会からの要求，安全性，環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること。

### 「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること。

# 技術・家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ，生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して，よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，**生活を工夫し創造する資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生活と技術についての**基礎的な理解を図る**とともに，それらに係る**技能を身に付ける**ようにする。

知識及び技能

(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなど，**課題を解決する力**を養う。

思考力・判断力・表現力等

(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，**生活を工夫し創造しようとする実践的な態度**を養う。

学びに向かう力、人間性等

# 技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ，ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して，技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。

知識及び技能

(2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。

思考力・判断力・表現力等

(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

# 家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 家族・家庭の機能について理解を深め，家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて，生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

思考力・判断力・表現力等

(3) 自分と家族，家庭生活と地域との関わりを考え，家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

# 技術分野における見方・考え方を働かせるとは

技術の開発・利用の場面で用いられる「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること」などの技術ならではの見方・考え方を働かせ学習すること。

技術は単なる自然科学の応用ではなく、複数の側面から要求・条件を吟味し開発・利用が決定されるものである。このことを踏まえれば、例えば、どのような新しい価値を創造したり既存の価値に変革をもたらしたりすべきかといった社会からの技術に対する要求と、開発・利用時の安全性、自然環境に関する負荷、開発・利用に必要な経済的負担等の相反する要求の折り合いを付け、**最適な解決策を考えることが技術分野ならではの学び**となるのである。

この技術の見方・考え方は、技術分野の学びだからこそ鍛えられるという意味で**技術分野を学ぶ本質的な意義の中核**とすることができる。さらに、今後遭遇する様々な技術に関する問題の解決場面においても働かせることができるという意味で**技術分野の学びと社会をつなぐもの**ともいえる。



# 家庭分野における見方・考え方を働かせるとは

家庭分野が学習対象としている家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生涯にわたって，自立し共に生きる生活を創造できるよう，よりよい生活を営むために工夫すること。

「生活の営みに係る見方・考え方」に示される視点は，家庭分野で扱う全ての内容に共通する視点であり，**相互に関わり合うもの**である。したがって，生徒の発達の段階を踏まえるとともに，取り上げる内容や題材構成などによって，いずれの視点を重視するのかを適切に定めることが大切である。例えば，家族・家庭生活に関する内容においては，主に「協力・協働」，衣食住の生活に関する内容においては，主に「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」，さらに，消費生活・環境に関する内容においては，主に「持続可能な社会の構築」の視点から物事を捉え，考察することなどが考えられる。

「生活の営みに係る見方・考え方」のうち，「生活文化の継承・創造」については「生活文化を継承する大切さに気付くこと」を視点として扱うことが考えられる。

# 技術・家庭科の目標を実現するためには

- 生徒自らが生活や技術に関心をもち、**実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てること。**

実践的・体験的な活動

- 家庭や地域社会との連携を重視し、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して適切な題材を設定し、**資質・能力の育成とともに、心豊かな人間性を育むことや発達段階に応じた社会性の獲得、他者と関わる力の育成等にも配慮すること。**

資質・能力の育成、人間性、社会性の獲得等

- 従来の**実践的・体験的な活動の内容を吟味し、仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるなど、充実感や成就感を実感させること。**

問題解決的な学習を一層充実

- 学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりの理解にも触れるなど、生徒の実態に応じた内容や活動を準備し、自ら問題を見いだして課題を設定し解決を図る問題解決的な学習を一層充実させること。

本研究のベース

仕事の楽しさや完成の喜び等、充実感や成就感を実感

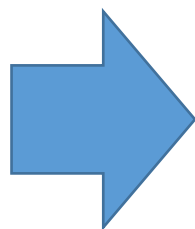
# ＜研究の柱＞ 学びの質と問題解決的な学習

技術・家庭科の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」

3つの学びを通して、生活や技術に関する事実的知識が概念的知識として質的に高まったり、技能の習熟・定着が図られたりする。

また、「対話的な学び」や「主体的な学び」を充実させることによって、技術・家庭科が目指す思考力、判断力、表現力等も豊かなものとなり、生活や技術についての課題を解決する力や、生活や技術を工夫し創造しようとする態度も育まれる。

授業改善



学びの質を問い続ける実践研究

(問題解決的な学習と3つの学び)

授業実践

- ※ 問題解決的な学習を深化・拡充させていく生徒の姿 (表2)
- ※ 問題解決的な学習を深化・拡充させる教師の工夫と手立て (表3)

# 学びの質とは（見方・考え方を働かせて深い学びへと）

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた**授業改善**を進めるに当たり、特に「**深い学び**」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「**見方・考え方**」である。技術・家庭科の特質に応じた「**見方・考え方**」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげる。



## 授業改善＝指導方法の工夫・改善

題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。→**学習ユニット**

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解する。→**習得・活用・探求の各段階と学習目標の設定**

生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう学習の過程を重視する。→**問題解決的な学習の深化・拡充**

# <研究の柱>

## 学びの質を高める問題解決的な学習の充実

### 研究内容

#### (1) 新学習指導要領に対応した指導計画の作成

##### ① 3年間を見通した年間指導計画の作成

\* 分野・内容別指導計画

##### ② 学びの質の高まり

\* 学習ユニットを段階的に位置付けた指導計画の作成

#### (2) 学びの質を高める問題解決的な学習の工夫

##### ① 問題解決を図る3つの場と活動内容の工夫

\* 課題意識をもつ場 \* 課題解決の場 \* 課題解決を振り返り、新たな課題に向かう場

##### ② 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習展開の工夫・改善

##### ③ 問題解決を図る学習場面のまとまりを意図的に位置付けること

\* 学習ユニットの設定（題材，単位時間，学習場面）→3年間を見通した指導計画との整合性

##### ④ 質の高い学びを実感させる振り返りシートの作成

# 研究主題

**社会の変化に対応し、**

**よりよい生活を創造する技術・家庭科教育**

～ 学びの質を高める問題解決的な学習のあり方 ～



# 目指す生徒の姿

- 生活を営む中で、問題を見いだして課題を設定し、実践等で身に付けた知識や技能を駆使し、その問題を解決しようとする生徒。  
(主体的に学習に取り組む態度)
- 他者との関わりを積極的に行い、主体的に自己の考えを深め、振り返りや修正、表現する活動を通して、生活を工夫し創造しようとする生徒。  
(思考力・判断力・表現力等)

# 研究仮説

3年間を見通した年間指導計画を立てて問題解決的な学習を工夫・改善すれば、学びの質が高まり、生活を工夫し創造する資質・能力が育つであろう。



「**学びの質を高める**」ために、問題解決的な学習を基本とし、「3年間を見通した指導計画」の作成及び「問題解決的な学習の充実」を図れば、「**生活を工夫し創造する資質・能力**」が育成されるであろう。

# 社会の変化に対応し、よりよい生活を工夫し創造する生徒

学びの質の高まり

生活を工夫し創造する資質・能力

問題解決能力

実践的な態度

基礎的な知識・技能

深い学び

↑  
対話的な  
学び  
・  
主体的な  
学び

問題解決的な学習

学習ユニット

学習ユニット

学習ユニット

学習ユニット

実践的・体験的な学習  
生活体験・既習内容

学習場面

活動内容

課題意識  
見通しをもつ場

- ・主体的・協働的な学習を行うために、課題意識をもつ
- ・課題解決のために道筋を考え、見通しをもつ

思考・判断・表現する場

- ・問題の解決をするために、思考し判断して自分の考えをまとめる
- ・自分の考えをまとめたものを、相手に伝えるために表現する

課題解決を振り返り、新たな課題に向かう場

- ・自分の課題解決を振り返り、学びを実感する
- ・課題解決を通して、新たな課題に気づき取り組もうとする

研究構想図

# 学習ユニット



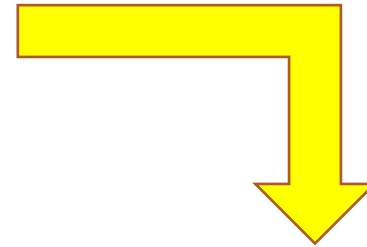
学習ユニットの形態：問題解決的な学習のスパン（**課題解決テーマの設定規模**）

- 1 題材を通して学習ユニットを計画する場合：
- 2 題材における学習内容を通して学習ユニットを計画する場合：
- 3 **3つの場それぞれを学習ユニットとして計画する場合：**

# 研究内容

## 1 新学習指導要領を見据えたカリキュラムの構築

3年間を見通した指導計画の作成



## 2 問題解決的な学習について

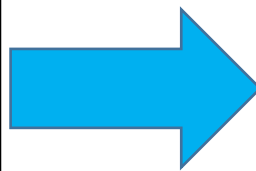
学習場面の設定→学習ユニットによる問題解決の焦点化

3つの学びと問題解決的な学習の深化・拡充：振り返りシートの活用

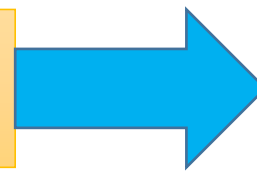
## 3 学習指導の工夫＝本教科の授業改善の具体的な手立て

4 生徒の変容

5 教員の変容



学習評価



授業評価

## 3年間を見通した指導計画の作成

- 学習指導要領を鑑み「3年間を見通した年間指導計画」を検討・作成する。（題材構成，題材配列）
- 分野の内容の配列だけでなく，各分野間での関連や他教科との関連も意識し，**学びに連続性**が生まれるように工夫している。
- 学習ユニット（課題解決の場面）を年間指導計画に意図的に位置付け，**系統的に問題解決的な学習**を取り扱う。（**系統性，整合性**）



- ※ 問題解決的な学習の位置付けを明確にする。
- ※ 3年間を通して系統的・体系的に学びの質を高める。  
（問題解決的な学習の充実）



# 学習ユニットについて

- 生徒が主体的・対話的に取り組める問題解決的な学習を工夫し、意図的に配置した**学習のまとめ**りである。
- 学習ユニットの**スパンに留意して指導計画を作成**する。
- 題材配列により**技術分野と家庭分野**で異なる。

例) 技術分野では、「課題の設定」「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」「課題解決に向けた製作・制作・育成」「成果の評価」の各段階で構成され、段階ごとの評価と修正を行いながら各段階を往来することに重きを置いている。

**\* 教師側の「何を学ばせるか」と、生徒側の「何を学んだか」を一致させる。**



**技術・家庭科の見方・考え方を意識して学習ユニットを計画する**

# 問題解決的な学習と3つの場

学習の場	活動の内容
課題意識をもつ場	<ul style="list-style-type: none"><li>• 主体的な取り組みとなるよう課題を自分のこととしてとらえる活動</li><li>• 目的をもって他者と問題を共有しようとする活動</li><li>• 問題の解決のために道筋を考え、見通しをもつ活動</li></ul>
課題解決の場	<ul style="list-style-type: none"><li>• 問題の解決をするために、思考し判断して自分の考えをまとめる活動</li><li>• 自分の考えをまとめたものを、相手に伝えるために表現する活動</li></ul>
課題解決を振り返り、新たな課題に向かう場	<ul style="list-style-type: none"><li>• 解決した課題を振り返り、振り返りシートにまとめる活動</li><li>• 振り返りシートをもとに、次の課題につなげる活動</li></ul>

## 「3つの場」と「主体的・対話的で深い学び」の関係

「課題設定の場」「課題解決の場」「課題解決を振り返り、次につなげる場」と「主体的・対話的で深い学び」の関係を整理し、「**問題解決的な学習を深化・拡充していく生徒の姿**」として整理する。



- 授業後で目指す生徒の姿やワークシートに現れるべき文言などを整理する。
- 生徒の姿については、段階性を持たせ**レベル順に整理**し、学びの質の高まりが見て取れるようにする。〈表2〉
- 生徒の姿を実現するために「**問題解決的な学習を深化・拡充させる教師の工夫と手立て**」として示す。〈表3〉

## **技術・家庭科における「主体的な学び」：学びに向かう力，人間性等**

現在及び将来を見据えて，生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し，見直しをもって解決に取り組むとともに，学習の過程を振り返って実践を評価・改善して，新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学びである。そのため，学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し，自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり，自分が社会に参画し貢献できる存在であることに，気付いたりする活動に取り組むことなどが考えられる。

## **技術・家庭科における「対話的な学び」：思考力，判断力，表現力等**

他者と対話したり協働したりする中で，自らの考えを明確にしたり，広げ深める学びである。なお，技術分野では，例えば，直接，他者との協働を伴わなくとも，既製品等の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども，対話的な学びとなる。

## 技術・家庭科における「深い学び」

**知識・技能，思考力，判断力，表現力等，学びに向かう力，人間性**

生徒が，生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し，その解決に向けた解決の検討，計画，実践，評価・改善といった一連の学習活動の中で，生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり，表現したりして，資質・能力を獲得する学びである。



このような学びを通して，生活や技術に関する事実的知識が概念的知識として質的に高まったり，技能の習熟・定着が図られたりする。

また，このような学びの中で「対話的な学び」や「主体的な学び」を充実させることによって，

**技術・家庭科がめざす思考力，判断力，表現力等も豊かなものとなり，生活や技術についての課題を解決する力や，生活や技術を工夫し創造しようとする態度を育むことができる。**

# 主体的・対話的で深い学びを実現するための 教師の工夫と手立ての関係

学習ユニットにおける主体的・対話的で深い学びを目指すため

どのような教師の指導が必要か

主体的な学びの実現

対話的な学びの実現

深い学びの実現

例)

- 「課題解決を振り返り、新たな課題に向かう場」において「主体的な学びを実現」するためには「自己の変容を自覚する場の設定や助言」「生徒の学びの過程に対する価値付け」が必要である。
- 「生徒が学習の流れや成果を把握し、自分の成長を実感できるように、授業のワークシートとは別に1枚のシートに振り返りをまとめさせる。

教師の工夫と手立て

授業改善

# 課題解決のための工夫と手立て

## 思考の深まりが期待できる



(例)

- ※ 複数の軸で順序付け，比較，分類ができるようになる。
- ※ より多様な関連や様々な性質に着目できるようになる。
- ※ 対象がもつ本質的な共通点や固有の性質に気付くようになる。

### <生徒の変容>

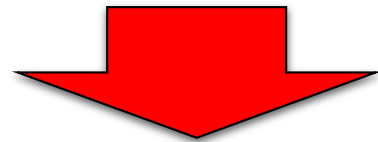
比較したり分類したりする際に，必要な情報を取捨選択したり，交流活動により自己の考えを変更したり，深めたりできる。

生徒の習熟の状況に応じて，生徒自身が試行錯誤しながら課題解決の視点を自分で考えることができる。



## 課題解決のための工夫と手立て（教師の仕掛け）

- ※ 問題解決的な学習には，他者と協働して問題を解決しようとする活動や，言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの活動が想定される。
- ※ 比較する，分類する，関連付けるなどの教師の意図的な「課題解決のための工夫と手立て」が重要となる。
- ※ 本研究で設定した課題解決に迫る3つの学習場面における活動のねらいを明確にし，教師の意図的な指導・支援を具体化しておくことが必要である。



- ※ 技術・家庭科の目標や内容の中に含まれている思考・判断・表現に係る「課題解決のための工夫と手立て」につながる教師の仕掛けを分析し，整理しておくことが必要です。→公開授業で

課題解決の3つの場面における生徒の具体的な活動や思考の深まり（課題解決の状況）をイメージ

○ 順序付ける

- ・ 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。

○ 比較する→ (特に、重要)

- ・ 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。

○ 分類する

- ・ 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。

○ 関連付ける

- ・ 複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
- ・ ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。

○ 多面的に見る・多角的に見る (共有する)

- ・ 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。

○ 理由付ける (原因や根拠を見付ける)

- ・ 対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。

○ 見通す (結果を予想する)

- ・ 見通しを立てる。物事の結果を予想する。

○ 具体化する (個別化する, 分解する)

- ・ 対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。

○ 抽象化する (一般化する, 統合する)

- ・ 対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。

○ 構造化する (体系化する, 系統化する)

- ・ 考えを構造的 (網構造・層構造など) に整理する。

生徒がどのように課題解決を図っていくのかを教師が明確にイメージしておくこと。

## 振り返りシートについて

- 生徒が学習ユニットの一連の学習過程を意識し、学習の深まりに気付くために、学習ユニットごとに振り返りシートを作成、活用する。
- 生徒が学習の流れや成果を把握しやすいように、授業のワークシートとは別に1枚のシートに課題解決の振り返りをまとめる。
- 振り返りシートの質問内容を工夫する。
  - \* 教師側の「何を学ばせるか」と、生徒側の「何を学んだか」を一致させる。



**課題解決の足跡（学びの質を高まり）を  
振り返りシート等により評価していくことができる**

# 振り返りシートによる課題解決の意義

生徒の課題解決のための思考を助けることである。抽象的な情報を扱うことが苦手な生徒にとっては、それを自分の言葉で表現することで思考の深まり（課題解決の歩み）が分かり、次への課題解決への見通しが立てやすくなる。

## 課題解決のための思考ツール

協働的な学習、対話的な学習がしやすくなるということである。自己の課題解決の歩みをシートに表現することで可視化され、複数の生徒で情報の整理、分析を協働して行いやすくなる。

## 情報の整理・分析ツール

学習の振り返りや指導の改善に活用できるということである。一人一人の生徒の思考の過程を可視化することにより、その場で教師が助言を行ったり、生徒自身が学習ユニットの終わりに課題解決の過程を振り返ったりすることに活用できる。

→評価へ

## 学習の振り返り・改善ツール

# 振り返りシート活用の留意点（課題等）

## 振り返りシートの活用自体が目的化しないこと

学習の過程において、どのような意図で、どのように使用するかを計画的に考えて活用すること。



「課題解決のための工夫と手立て」により課題解決を可視化

### ＜振り返りシートの活用＞

- ※ 課題解決の取組であること：問題解決能力を評価
- ※ 言語活動の一つの形態であること：思考力向上の手立て
- ※ 言語活動の様々な工夫とあわせて：効果的な活用を工夫

## ※ 研究成果と課題から想定される質問事項 (1)

### 1 学習指導要領改訂の趣旨と研究の整合性

### 2 全体提案と授業改善

- ・ 学びの質を高める問題解決的な学習＝授業改善の視点から工夫・改善
- ・ 研究内容と公開授業の整合性（学習ユニットと3つの学習場面，3つの学び）
- ・ 学習指導案における研究内容（提案）の埋め込み→目標，工夫・改善点，評価
- ・ 題材構成・配列と学習ユニットの関連性

### 3 指導計画と学習ユニット：新・旧の学習指導要領の取扱い

- ・ 年間指導計画作成のポイント（学習ユニットをどれくらい繰り返す？＝学びの質）

### 4 生徒の変容と学習評価：課題解決のみとり

- ・ 授業における生徒の姿
- ・ 振り返りシートの活用と今後の発展性

## ※ 研究成果と課題から想定される質問事項 (2)

### 5 題材構成・配列

- ・新学習指導要領における題材の取扱い：3年間を見通した指導計画

### 6 教材・教具の活用

- ・提案性のある教材開発

### 7 移行期間から全面実施に向けて

- ・平成31年度入学の第1学年の取扱い

### 8 分野・内容における学習環境の整備

- ・学習活動を成立させるための教室環境や教具等
- ・教室掲示（生徒作品，研究の歩み等）

### 9 研究推進体制：教科経営

- ・研究組織，免許状等